



BASS POD

The Complete Bass Tone Solution

取扱説明書



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment Specialist

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL: 0476-22-9333 FAX: 0476-22-9334

はじめに

この度は、LINE6 社製の BASS POD をお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。

本品の性能をフルに発揮させ、末永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

ご使用の前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用下さい。
5. 定格電圧 AC100V, 50/60Hz で御使用下さい。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらない様御注意下さい。
7. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にして下さい。
8. 故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

Quick Start

1. POD のアウトプット・コントロールをゼロまで回して下さい。
2. POD のレフトとライト・アウトプットをレコーダー、ミキサーの入力へ、又はレフト出力からギターアンプの入力へプラグを差し込んで下さい。
3. ギターアンプへ接続する場合、A.I.R スイッチを “ AMP ” に設定して下さい。それ以外の場合は “ DIRECT ” に設定します。
4. AC アダプターを POD のパワー・コネクターへ差し込んで下さい。その後、コードを AC コンセントへ差し込みます。
5. ベースと POD の インプット・ジャックを接続します。
6. 電源を入れます。
7. AMP MODEL を選択します。
8. チャンネルのボリュームを最大にして、ベース、ミッド、トレブルをお好きなボリューム・レベルにを設定して下さい。
9. エフェクト設定を選びコンプレッサーとエフェクト Tweak を調節します。これにより好みのサウンドを作ることができます。
10. プリセット設定を使う際は、上向きと下向きの矢印のボタンを使用します。

さあ、弾きまくりましょう。

CONTROLS & CONNECTIONS

1. **Power Switch** : POD の右端。POD のオン/オフ・スイッチです。
2. **Input** : POD の右下。ここにベースからの出力を入れます。(モノラル又は、アンバランスの接続を選択します)
3. **Phones** : Phone ヘッドフォン端子 POD の左下。ヘッドフォンを使用する際は、ここにプラグを差し込みます。出力レベルつまみの調整によってボリュームをコントロールでき、色々な種類のヘッドホンに対応する様に作られているのでボリュームの大きな音も聞く事ができます。ヘッドホンを使って POD を使用する際は設定レベルに注意して下さい。ヘッドフォンを接続するとモデリングオンが Amp Model と DI 出力端子の両方から出力され自動的に A.I.R. プロセッシングが起動してスピーカー/マイク/ルーム音を聞くことができます。DI 出力を使う場合、または A.I.R. 機能が必要でない場合はヘッドフォンを差し込まないで下さい。
4. **Output : Level**: POD の左端のノブ。POD の全体的な出力のレベルとヘッドフォン・レベルの調節をします。POD のメモリー・ロケーションを保存する際に、この設定は保存されません。出力レベルを変更しても音色は変化しない為、ボリューム・レベルに関係なく好きな音作りができます。POD の出力レベルコントロールを最大にすると最善の S/N 比を得ることができます。出力レベルを下げるとノイズが発生する場合があるので気を付けて下さい。。レコーディング、ミキシングやその他スタジオギア等でできるだけ出力レベルを高くするために、POD の出力をマイクや楽器用入力端子ではなくラインレベルの入力に差し込んで下さい。これにより、POD の出力レベルをベストな状態に調節できます。もしお持ちの機材がマイク/ラインレベル用の入力端子でしたら、それらの入力レベルをまず最小に、そして POD の出力レベルを最大にしてからセッティングして下さい。
5. **Amp Model and D.I.** : POD の左上部。バランス型 3 種フォン・コネクターで、+4dBu のバランス型機器と、標準的な楽器用ケーブルを使った -10dBV 機器両方に対応しています。もしどちらか一方のコネクターのみでしたら Amp Model 出力端子をご利用下さい。(詳細は第 3 章をご参照下さい。)
6. **A.I.R. Mode** : レフトとライト出力の間に位置します。“フロント・エンド”として POD を使用して、ギターアンプに POD を接続する場合、A.I.R. Mode スイッチを AMP 側へ入れて、クリーンな音になるようにアンプを設定します。スイッチを反対側に入れた場合 A.I.R. 処理によるスピーカー/マイク/ルーム/のシミュレーション機能を解除します。POD をその他の設定で使用する場合(ミキサー、レコーダー、PA、パワーアンプ等へ直接接続する)、A.I.R. スイッチを“DIRECT”にしてください。アンプへ接続している時は、ヘッドフォンを接続しないでください。もしそのまま使用された場合 A.I.R. スイッチの位置がオーバーライトされ A.I.R. がオンになる為、ヘッドフォンの音は問題ないのですが、アンプの音がおかしくなります。
7. **Foot Pedal Connector** : POD の上部。電話のコネクターに形が似ています。ここにオプションの FLOOR BOARD や FB4 フット・コントローラーを接続します。
8. **MIDI In & Out** : POD の右上。POD を MIDI 機器に接続してチャンネル・メモリーを選択するか(プログラムチェンジ・メッセージを使って)、POD の操作を(コントローラー又は Sysex を使って)

行います。Emagic SoundDiver のソフトウェアには、コンピューター上のサウンドの編集/保存を行なう POD Tools CD が付いています。POD MIDI OUT は接続する機器の MIDI IN へ接続します。(その MIDI IN は MIDI OUT へ接続してください)。Deep Editing と MIDI Control、MIDI ギアの設定、MIDI と POD の接続方法に関しては、第 9 章を参照して下さい。

9. **Manual Button** : POD の中心部。ボタンを押してライトが点灯するとマニュアルモードが作動します。このモードでは、ノブを設定したところで聞く事ができます。
10. **Channel Up/Down Buttons** : Manual ボタンの左側。POD は 36 種類のアンプシュミレーターが組み込まれ、これらは 4 チャンネルのバンクにアレンジされています。(4 つのチャンネルは A、B、C、D に分かれています)。各バンクは 4 つのギターアンプがあるのと同じ様に考えて下さい。そして、この後のセクションで記載されている POD 用オプションの Line 6 フットコントローラー (Floor Board と FB4) は同じレイアウトを使用しています。Up と Down ボタンを押して POD のチャンネルにアクセスします。次のチャンネルへ行く時はどちらかのボタンを押して下さい。Up/Down ボタンをホールドすると次のバンクへ変わります。Manual モードが使われていない時は Manual ボタンのライトは消えています。チャンネルを呼び出す時は、その設定は現在のノブの位置と関連しません。ノブを回すだけでどんな変更も簡単に行なうことができます。詳しい説明に関しては、この後のセクションを参照して下さい。
11. **Amp Models** : 文字で囲まれた左下ノブ。ノブを回すと、POD 内のアンプシュミレーションによって音が変わります。(第 4 章の Modeled Amps を参照して下さい)。Amp Model を選択すると自動的に Cabinet Model も搭載されます。例えば RockClassic モデルを選ぶと Ampeg の SVT ヘッド、Ampeg の SVT8x10 ベースキャビネットのモデルが選ばれます。Effects/Cab ノブを使って Cabinet を選択することができます。実際、Bass POD では Amp Model ノブの調節によってアンプに関連する全ての設定が選択されます。Drive, Bass, Mid, Treble, Cab 等全てのアンプ設定は選ばれた AmpModel によって決まります。POD でロック調のサウンドやお好みのサウンドセッティングを楽しんで下さい。そして POD の操作に慣れてきたら各モデリングアンプ音をカスタマイズすることも可能です。(詳細は第 6 章をご参照下さい。)
12. **Drive** : Output Level の上に付いているノブ。このノブは選択したアンプモデルの入力をどれくらいドライブするかをコントロールします。マスターボリュームのないギター・アンプの入力ボリューム・コントロールと同様です。高く設定するほど歪みが多くなります。
13. **Tone Controls** : 上部左側ノブ。ベース、ミッド、トレブルです。通常 of ギターアンプと同様にアンプモデルを変更すると、レスポンスとコントロールの相互作用が変わり、アンプモデルが似ているオリジナル・アンプのトーン・コントロールと同じ様に作動します。POD はプレゼンス・スイッチがあり、タップテンポ・ボタンをホールドし、トレブル・ノブを回すとオン/オフできます。詳細はタップテンポ機能の章を参照して下さい。
14. **Channel Volume** : 演奏している “チャンネル” のボリューム・レベルをコントロールします。2 つの別々のチャンネルに保存された音の間のレベルを均等にする為に使用します。(例えばバックイングとリード・トーン)。通常、最良の S/N 比パフォーマンスを確実に得る為にチャンネル・ボリュームをできるだけ高く設定します。

15. **Compress**:コンプレッサーのレベル調節用つまみ。ベース音の録音を成功させる為にはコンプレッサーの使用が不可欠です。それ故スタジオにおいて往年の名器として使われてきた LA-2A をモデルとしたプログラマブル・コンプレッサーを搭載しています。つまみを上に上げるとコンプレッションレベルが上がり、つまみの位置を最小にするとコンプレッサーが切れます。（詳細は Effects Chapter をご参照下さい）
16. **Effect Tweak** : エフェクトのかかり具合、効き具合を補正するのがこのエフェクト Tweak です。エフェクトを上げると、音は深みが出たり、大きくなったり又、より自然になります。エフェクトのスピード（ディレイ、トレモロ、コーラス、フランジャー、ロータリー・スピーカー）は、タップテンポ・スイッチ（20 を参照）によって設定されます。エフェクト・パラメーターに関しては Appendix B 又は、エフェクトの章を参照して下さい。Effect ノブが Bypass になっている場合、Effect Tweak は何ら影響を与えません
17. **Effect/Cabs** : 使用するエフェクトを選択します。（詳細は POD Effects の章をご参照下さい）Cabinet Model を選択するには、CABS と EQ ボタンを押してからつまみを回して下さい。使用可能なキャビネットはつまみの周りにグレー色で表示されています。Amp Model をつまみによって選択すると最適なキャビネットが自動選択されます。第 6 章ご参照の通り Amp/Cab のペアはカスタマイズが可能です。
18. **Tuner** : POD の中心部にあるボタン。このボタンを押すとデジタル・チューナーが作動します。その時、全てのエフェクト処理はバイパスされる為、音程がおかしい弦をはっきりと聞く事が出来ます。（チューナー・モードに入るとナチュラルかフラットのどちらかで表示されます。例えば G の場合 A が表示されます）。左側の矢印が点灯すると基音より低く、右側の矢印が点灯すると基音より高くなっている事を表示します。両方が点灯するとチューニングが合っているということになります。本体のボタンのどれか 1 つを押すと、音が消え通常のオペレーションに戻ります。
- Tuner Volume : チューナーが作動している時に（チューナー・モードを使用していない時、ボリュームは変わりません）、チャンネル・ボリュームのノブを回すとチューニング時のボリュームを調節する事ができます。フロアーボードを接続すると、ボリュームペダルでチューナー・ボリュームを調節します。
- Tuner Reference : A=440Hz とは異なる値でチューニングする場合はどのようにしたら良いのでしょうか？まずチューナー・モードを使用している時に、ディスプレイを見ながら Mid ノブを回します。これで周波数を 436 ~ 445Hz の間に設定する事ができます。この値の設定は保存される為、違う値に変更したい事がない限り使用するたびにリセットする必要はありません。値は 1 桁分しか表示されません。例えば、チューナーを 441Hz に設定すると、画面には 1 と表示されます。
19. **Apply FX to D.I.** : プログラムしたエフェクトを D.I.出力（または AMP MODEL の出力）で聞く時に使用して下さい。詳細は POD Effects の章をご参照下さい。
20. **Cabs and EQ** : ボタンのライト点滅時、以下 3 つの作業が可能です。
- 1) Cab Model Select(Effects ノブ)
- Cabs and EQ のボタンが点滅しているのを確認してから Effect/Cabs つまみを回し 15 のベースキャビネットモデルを選択することができます。

2) Post-Modeling EQ(Bass, Middle and Treble ノブ):

高性能のパラメトリックタイプ・イコライザーで POD サウンドの微調節が出来ます。ベースの倍音周波数を押さえたり、モデリングアンプの音にちょっとした手を加えたり、周波数をカットしたい時に使用します。使用する際は Cabs and EQ のボタンが点滅しているのを確認して下さい。Bass つまみは EQ 周波数の選択に、Middle は狭いレンジ周波数または広いレンジの周波数の選択に、Treble は+12db までのブースト、または制限のカットする為に使用します。Treble を 12 時の位置に合わせると EQ はオフの状態になります。

3) FX Lo-cut(Chan Vol ノブ):

この特別機能を使って基本的な周波帯の音色を変えずに高域部分のみにおいてエフェクト効果を与えることができます。Cabs and EQ のボタンが点滅を確認後、Chan Vol つまみを回して FX Lo-cut の周波帯をセットします。

20. Cabs and EQ “ Press and Hold Functions ” :

これらの機能はいくつかのアンプに対応したものです。

1) Mid Frequency Sweep(CabsAndEQ,を押したまま EffectTweak を回す):

6 種類のモデリングアンプは選択可能なまたはスワイパブルのミッドコントロールが付いています。Adam&Eve, Amp360, Rock Classic, Session, Stadium, Sub Dub で使用することができます。その他のアンプで使用できません。スワイプ可能な周波数についての詳細は AmpModels の章をご参照下さい

2) Noise Gate(Cabs And EQ,を押したまま Compress を回す):

POD に内蔵された Noise Gate は、アンプにノイズがのりにくくする為のものです。特にハイ・ゲイン設定の時有効です。(この時サウンドと共にノイズも大きくなるからです) Noise Gate をオンにするには、Cabs and EQ ボタンを押したまま Compress つまみを右に 1 時過ぎの位置まで回して下さい。オフにするにはつまみを左に 11 時の位置まで回して下さい。

21. **Save** : 自分で作ったサウンドを保存する時にこのボタンを使います。詳細は第 6 章の Creating & Storing Sounds を参照して下さい。基本的な操作に関してここで説明したいと思います。前もってプログラムされた POD プリセットの 1 つを使用する際、1~9 の番号と A~D のチャンネルの文字がディスプレイに表示されます。そしてどれか 1 つのノブを回すと、“EDITED” の文字がディスプレイの左端に表示されます。これはチャンネルをセーブすることを忘れないようにする為、表示されます。変更保存する場合は Save (21) を押します。セーブボタンが点滅し始めたら、Up/Down ボタンを押して下さい。1~9 のバンク内の A、B、C、D から保存先を選び、Save ボタンを再度押します。Save ボタンの点滅が止まり、選択した場所にサウンドが保存されます。前に保存されたサウンドは上書きされます。保存した後は、アップ/ダウンのボタンを押すだけで保存先を呼び出す事ができます

前もってプログラムされたサウンドを使用しない場合は、マニュアル・モードにおいて、ノブが設定されている所のサウンドが得られます。その設定値を保存したい場合、上記と同じ方法で保存先を行って下さい。(アップ/ダウン・ボタンを使って保存先を選択し、再度 Save ボタンを押すと完了になります)。

セーブする前に、“プリセット”に記憶されたサウンドをテストしたいことがあるかもしれません。その際、オーバーライトしても良い保存先を覚えておくとい良いでしょう。

注意) セーブをし始めた後、その処理を止めたい場合は、タップテンポ、マニュアル、チューナー、ノイズゲート又は、MIDI ボタンのいずれかを押してセーブモードをキャンセルする事が出来ます。(セーブボ

タンを押してから 5 秒間の間どのボタンも押さなければ保存はキャンセルされます)

MIDI)MIDI チャンネルの設定とサウンドのダンプを MIDI 経由で実行するのに使用します。詳細は Deep Editing & MIDI Control を参照して下さい。

セットアップ

GETTING SET UP

以下の、丸で囲まれている番号は後ろのカバーに図解されている POD のノブ番号を指しています。

ALL PURPOSE BASICS

POD の AC アダプターをコンセントに差し込んで、コードを右側にある 電源用 AC アダプターへ接続してください。ギター出力を POD の入力 へ差し込みます。POD の音をヘッドフォンで聞きたい場合、フォンジャック にヘッドフォン・プラグを接続してください。レコーディング・スタジオで使用する場合は、以下の Scenario One を参照してください。

ライブ演奏する場合は、Scenario Two を参照してください。

SCENARIO ONE (スタジオでの使用)

POD をレコーディングで使用する場合、正しくセットアップする為に以下をまずお読み下さい。

Mount Up : POD を設置する最適な場所を探すにあたって、オプションのデスクアダプター、アンブトップ、POD 用マイクスタンドにも目を通して置いて下さい。これらは POD Tools CD と Line 6 のホームページに記述されています。

Gimme Some A.I.R. : POD の出力をギターアンプの入力以外へ接続する場合、A.I.R. スイッチを “Direct” にしてください。このモードにおいて、A.I.R. DSP はアクティブになります。このスピーカー・キャビネット・エアー・マイクロフォンは音を再現することができる為、「通常のギターアンプとマイクのセットアップがもう使えない」と思う程素晴らしいものです。POD の 1/4 TRS 出力は多目的に使用でき、POD が音をプロセスしたバランスの+4dBu 又は、アンバランス入力の-10dBV で送ることができます。最良のパフォーマンスを得るには、質の良いケーブルを御使用頂く事をお勧めしています。

Ready To Play Anywhere : POD はどんな周辺機器とも一緒に使うことができます。

何千万もする SSL コンソールの横でもカセット・レコーダーの隣でも、どこでもアットホームに活躍します。接続の手順としては、簡単な物から複雑なレコーディング・システムまで以下の通りです。

Boom Boxes & Small Portable Studios (小スタジオ)

POD の出力 を外部機器の入力へ接続します。理想としては、左右両方の出力をお手持ちの機材に接続しステレオで使います。その場合、A.I.R. スイッチ が “Direct” に設定されているか確認し、ギターをギター入力 へ差し込みます。POD の Output Level を設定して機材には十分な信号が流れて、かつオーバードライビングや歪みが生じない程の大きさにします。Amp Model Selector を POD Clean にします。Drive を 9 時か 10 時の位置に設定し、Channel Volume を最大にして下さい。そして POD のアウ

トット・レベルのノブとお手持ちの機材の入力用ボリューム・コントロールを使って入力をオーバードライブによる不愉快な歪みを引き起こさないまま POD から最大の音量を得られるようにします。ヘッドフォンがあれば、システムを通して聞く音と同じかどうか比べる為に、ヘッドフォン出力へ差し込みます。ヘッドフォンを着ける前に、音が大きくなり過ぎていないか確認してください。ヘッドフォン・レベルも出力レベルによって設定されています。

Big Time Connections (大スタジオ)

ミキサーとマルチトラック・レコーダーを含む設定又は、コンピューター・ベース、デジタル・オーディオ・ワークステーションの設定にはいくつかの選択肢があります。MIDI コンピューター・ユーザーの場合、Deep Editing & MIDI Control の章を参照して、POD に付いている MIDI コントロール(例えば Tools CD に含まれる Sound Diver editor プログラム)についての詳細を読んで下さい。

First Time's Charm : POD の A.I.R. スイッチ が " Direct " に設定されているか確認して下さい。普通に、ギターケーブルを POD に接続し、+4dBu ステレオ TRS 1/4 (3 極フォン) の左右両方の出力を周辺機器 (POD の出力は-10dBV やアンパラスの機器にも合います) の入力に接続します。POD はギターの音を処理し、それをトラックからテープやディスクへ書き込むことができます。

Changing History : ベースのトラックを録音してから何週間も過去のデーターにさかのぼってアンプとエフェクター設定を変更することが可能になりました。従来のベースアンプ・システムでは考える事が出来なかった、柔軟で豊富なバラエティーのあるセッティングをミックスダウン時に再現する事が出来るようになりました。以下は、動作環境とその他接続に関する詳細になります。

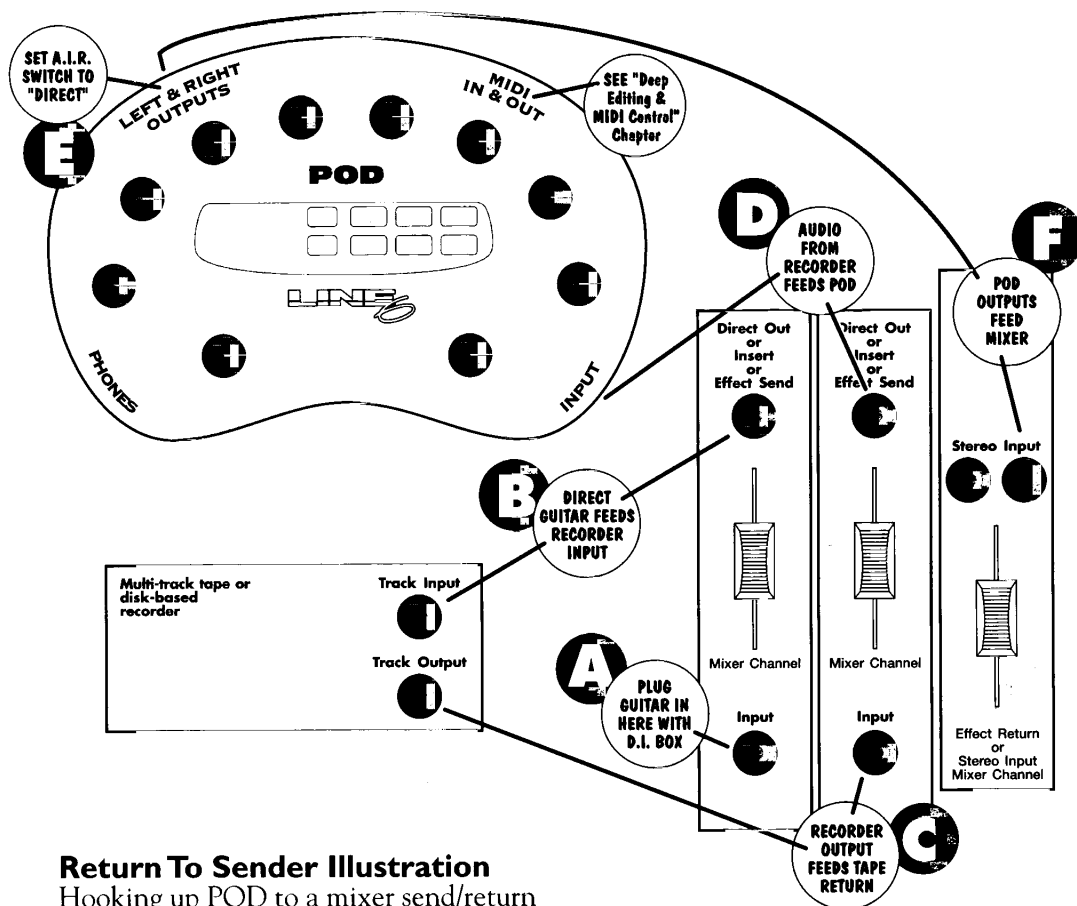
Direct Injection : センド/リターンを使用する時は、ベースをレコーダーやミキサーのダイレクト入力または、コンピューター・ベースのオーディオ・システムの入力へ接続してください。ミキサーのチャンネルにギター出力を接続する場合はどうでしょうか？ギターのピックアップはハイ・インピーダンス設計になっています。インピーダンスは 300 K Ω から 1 M Ω で最高の結果を出すための理想と言われています。殆どのミキサー入力は比較的、ロー・インピーダンスになっている為、理想的なギターの音を再現することはできません。ギターを直接接続するとギターの音が潰れたようになってしまいます。このような音作りを避ける為に、DI ボックスや透明感のある楽器用プリアンプを使ってミキサーに入力する前にギター信号をバッファーすることをお勧めします。

(クリーンで音色の変わらないプリアンプが理想で、アンプシュミレーターは避けて下さい。ギタープリアンプはクリーンでフラットな周波数帯のレスポンスがあれば使うことが出来ます)。アクティブ・ピックアップを使っているギターの出力は比較的ロー・インピーダンスな為、ラインレベルのミキサー・チャンネルへダイレクトに接続することである程度良い結果を得ることができます。例えば、ギターを直接 Mackie1202VLZ に接続しトリムを上げ目一杯の時に、良い結果を得る事が出来る場合があります。低いインピーダンスのマイク入力はアクティブ回路を下げ過ぎてしまう為、アクティブ・ピックアップは、マイク・レベルのミキサーへ入力する事は避けてください。

Return To Sender : どのように外部機器をSEND/リターンへ接続するかを見えます。SEND/

リターンは “ Changing History ” のセクションで説明した様にさまざまな柔軟性を提供します。

エフェクトを使用する場合：まずエフェクトをお好みのキャラクターに設定します。そして POD でエフェクトがかかっていないトラックとかかっているトラックを比較するとします。ダイレクト出力がチャンネルごとにあるミキサーをお持ちでテープ/HD レコーダーを使用する場合、以下のようになります。



Return To Sender Illustration

Hooking up POD to a mixer send/return

Return To Sender Illustration：POD をミキサーのセンド/リターンに接続する方法です。ベース入力を DI に差し込みます。そして DI をダイレクトアウトに持つミキサー・チャンネルへ入力します。トリム・チャンネルを設定すると、入力レベルは適正值になります。録音トラックの入力へミキサー・チャンネルからダイレクトに出力を差し込み、レコーダーへの入力をモニターするトラックを設定します。レコーダーのトラック出力をもう 1 台のダイレクト出力の付いているミキサー・チャンネルの入力へ接続します。POD の入力へそのダイレクト出力を差し込み、ミキサーのステレオ・チャンネル入力の 1 つへ POD の出力を接続します。A.I.R.スイッチ が “ Direct ” に設定されている事を確認して下さい。ベースを弾いて、POD により処理された音を聞く準備が完了したので、レコーディングのトラックを決めます。その後、トラックを再生し、アンプとエフェクト等のスイッチを入れて下さい。もっと高度なテクニックで使いたい方は、後に記載されている MIDI Mania と全自動操作の設定に関して Deep Editioning & MIDI Control のセクションを参照してください。注：音が悪くなる原因となる為、プリ POD とポスト POD を同時にモニターしないで下さい。

Level Headed：上記の内容においてレベル設定を行う時は、POD に点灯するクリップ・インディケーター（ Bank Up/Down ボタンのすぐ下）を、気を付けて見ていて下さい。インディケーターは POD

入力がクリッピングしている事を表示するので、送られてくる信号のレベルを下げる必要があります。POD へあまり低いレベル信号を送らないようにして下さい。どんなオーディオ機器を使用しても、それでは良い音になりません。

Radiation Alert : シングルコイルのベースを使用している場合、コンピューターのモニターからのノイズを簡単に拾います。CRT のディスプレイは特殊な放射線を放出しているので、ベースのピックアップは放出する電磁波を受信し、増幅します。そして、これらはバズやハムノイズとしてオーディオ信号から聞こえてきます。CRT から離れ、ギターを画面から離し、コンピューターとのディスプレイに直接向き合わなければ、その問題は最小限に抑えることができます。しかし、狭いスタジオでは、バズノイズを含む CRT に悩まされながら素早くトラックを行う必要があります。以上を防ぐ為には、録音するトラックを設定し、プリロールをスタートし、コンピューターのスイッチをオフにします。そしてベースの音を録音します。レコーディングが終了したら、モニターのスイッチを入れ、バズノイズの無い再生音を確認します。

Pedal Power : POD のフットコントローラーのオプションには、FLOOR BOARD と FB4 があります。FB4 には 4 つの POD チャンネルとタップテンポ・コントロールを選択する 4 つのフット・スイッチが付いています。POD のチャンネルにプログラムされた音の選択は足元で簡単に行えます。ワウペダル、ボリュームペダル等のオン/オフ・コントロールも行うことができます。どちらのフットコントローラーを選択しても、Pedal ジャックに接続してください。通常使用する、MIDI コントローラー用ペダルでもコントロールすることはできます。

Not So Big Time Connections (コンピューターと MTR)

4トラック又は、それ以上のトラック・レコーダーや“ ネイティブ ” のコンピューター・オーディオ・システムでも、センド/リターンを作動させることは可能です。(ベースと他の楽器をミックスしたい場合、理想としては、コンピューターシステムに 2 つ以上のアウトとインのチャンネルがあれば良いでしょう)。

Computer User : コンピューターの入力へベースを接続します。(最適な信号レベルを得るには DI を使用することをお勧めします)。A.I.R. スイッチ が “ Direct ” に設定されているか確認して下さい。POD にコンピューター出力から接続し、ギター信号がコンピューターから出力され、演奏しながら POD の奏でる素晴らしいアンブトーンの出力を聞くことができます。POD の入力がオーバードライビングしないよう CLIP ライト を必ず確認して下さい。

Multi-trackers : マルチトラック入力へベースを接続します。(信号レベルの適正值を得るには DI を使用して下さい)。A.I.R. スイッチ が “ Direct ” に設定されているか確認して下さい。マルチトラックのトラックから出力を、POD へ送ります。POD へ送られる出力レベルを調節すれば CLIP ライト は点灯しません。マルチトラックを使って POD をモニターするには、録音されたベース信号はテープやディスクから聞かないまま POD へ送られなければなりません。そうしないと、ベース処理とダイレクト両方を同時に聞く事になり、実音とは若干ことになってくる場合があります。1 つ又は、それ以上のチャンネルからダイレクト出力のあるマルチトラックか、プリフェーダー・エフェクトのセンドが必要になります。(入力信号が POD に対してエフェクト・センド経由で送られている時に、トラック用のモニターレベル全部下まで下げることができます)。

Stomp Boxes (コンパクトエフェクター)

もし既にコンパクトエフェクターをお持ちならば問題無く POD と共有できます。ベースと DI ボックス(使用していれば) の間にそのエフェクターを置くか、ベースとミキサー入力(DI 無しで信号を送っている場合) の間に置いて下さい。フットエフェクターがミキサー・チャンネルや DI をオーバードライブしていないか確認して下さい。そして、踏んだ時に DI を通る信号がミキサーの入力をオーバードライブしないように気を付けてください。POD の前後にフットエフェクターを置く事もできます。使っているほかの機器と作ろうとしている音にもよりますが、設置場所の制限は特にありません。レベルを設定している時は、ベースを引く際の最大音量で音をだし、最も音圧の高いピックアップのコンビネーション、そしてコンパクトエフェクトを最大のボリューム・ブーストにして下さい。そして、最終的に大きな音の信号も連続チェーンをきれいに通る様にします。

MIDI MANIA

POD は MIDI 経由ですべてをコントロールする事が出来ます。上記で説明したセンド/リターンを使うと POD をパワーアップすることが出来ます。MIDI を使用する事によって、POD のパラメーターを自動的に操作する事ができます。例えば、レコーディング・トラックをスタートさせます。(ベースは直接 MTR へ、POD の MIDI 出力のレコーディングは MIDI シーケンサーへ行きます)。そしてトラッキングしながらフロントパネル又はフットコントローラーで POD のメモリーを変更したり、リバーブを上げ、トーンのノブを回したり、アンプを他へ変更したりする事が出来ます。レコーディングを停止し、シーケンサーからの MIDI 信号を POD で再生すると、POD はレコーディング時と同じ動作をします。録音可能な MIDI トラックとベーストラックだけを再生する事もできます。POD のノブとボタン、フットコントローラーで必要な機能の自動操作を行えます。また MIDI メッセージをエディットしたり、他の POD の応用も可能です。詳細は Deep Editing & MIDI Control を参照して下さい。

Scenario Two (ライブでの使用)

ライブにおいて POD をベースアンプ用 “フロントエンド” 又は、サウンドシステムへのダイレクト出力する際は、以下を参照して下さい。

Mount Up (仕込み) : ライブ演奏の時に、ステージの身近な所に POD を設置する場合の 1 番簡単な設置方法は、POD のオプションのマイクスタンド、アンプトップ、デスクアダプターを使用します。これらは持ち運びにも大変便利です。

Gimme Some A.I.R. : POD をライブ使用する際、設定方法に 2 種類の選択があります。POD の出力を直接外部機器へ入力するか、若しくはベースアンプとベースの間に接続します。こうする事によってアンプのフロントエンドのトーン・シェーピングとして動作させる事が出来ます。PA やその他のサウンドシステムへ接続する場合、A.I.R. スイッチを “Direct” にします。このモードにおいて、A.I.R. DSP はアクティブになり、スピーカー・キャビネット・エアー・マイクロフォンを再現する事ができます。この設定はとても素晴らしい為、ステージに通常使用するギターアンプやマイクの設定がもはや過去のものな

ってしまうかもしれません。POD 1/4 TRS 出力は+4dBu のバランスと-10dBV のアンバランスの両方に対応しています。最高のパフォーマンスを得るには質の良いケーブルをお使い頂くことをお勧めします。

POD Take Over : ベースアンプの直前に使用する場合、 A.I.R. スイッチが “ Amp ” になっているか確認して下さい。（その他の設定になっていると音が悪くなります）。マイク用の各種スピーカー・シミュレーション機能のデジタル信号の一部が解除されます。その際、ヘッドフォンを接続しないようにして下さい。左側の出力（モノラル出力）からベースアンプの入力へ標準ギターケーブルを接続してください。

POD Output Level : A Word of Caution : POD の Output Level コントロールはどんな機器にも対応できるゲインを持っている為、ベースアンプの入力をオーバードライブする十分な力も備えています。その特性は歪みの原因にもなる為、POD の持つ本来の音を聴くことが出来なくなります。その為、出力レベルは最初かなり低めに設定しその後、高い設定で再生します。

Turing Your Amplifier : ベースアンプとして POD を使用するのがとても標準的な使い方です。アンプに1つしかボリューム・コントロールがない場合、“クリーン”な音を維持する為にボリュームを低く設定します。入力のボリューム・コントロールに加えマスター・ボリュームがある場合、最初のボリュームがマスター・ボリュームをオーバーライドしないように設定する事によりクリーンな音を得ることができます。（アンプによって設定値が変わります）。しかし通常、入力ボリュームはマスター・ボリュームよりも低くして、クリーンな歪みの少ない方にします。パッシブトーン・コントロールがある場合、ミッド・コントロールを最大に設定し、トレブルとベース・コントロールを0にします。アクティブ・トーン・コントロールの場合、アンプのオーバードライビングには気を付けて下さい。POD の出力レベルを確認して、アンプの入力がオーバードライビングされない様にして下さい。A.I.R. スイッチは Amp に設定して下さい。

パワーアンプの入力へ直接接続するジャックやエフェクト・リターンが付いているベースアンプがある場合、POD の出力をそれらに直接接続して、アンプのトーン・コントロールをバイパスしてアンプが音色を変えることを防ぎます。

Stomp Boxes, Live Setups, & You : 外部エフェクター等を使用する場合、どの位置に置くか考える必要があります。ワウやディストーションは POD とベースの間に置きます。リバーブとディレイは通常 POD の後に置きます。コンプレッサー、コーラス、フランジャー、フェイズ、トレモロ、ビブラート等は POD の前後どちらにでも置くことができます。ボリュームペダルを POD の後に設置すると POD はトーンを変えずにボリュームをコントロールすることが出来ます。また POD の前にボリュームペダルを置くことにより、POD への入力ドライブをコントロールしてクリーンな音から歪んだ音までペダルで調節出来ます。アンプにラインレベルのエフェクト・ループがある場合、エフェクトセンドから入力へは接続しないようにして下さい。POD の入力にはベースレベル用にデザインされています。（上記で述べたように、リターンだけを使用することができます）。

Pedal Power : POD にはオプションのフットコントローラーで Floor Board と FB4 があります。詳しくはこの後の章で説明したいと思います。FB4 は4つのメモリーをフットスイッチで切り替えることができ、タップ・テンポをコントロールします。Floor Board は POD のチャンネルに有るあらゆるサウンド・プログラムをコントロール出来るだけでなく、ワウペダル、ボリューム・コントロール、ストンプボックス

型のオン/オフコントロールを行うことができます。どちらのフットコントローラーを選択しても ペダルジャックへ接続します。標準 MIDI コントロール・ペダルで POD をコントロールすることもできます。

POD Effects

Deep Editing

Emagic 社製の SoundDiver、MIDI エディター/ライブラリアン・プログラムが付属されています。このプログラムは Macintosh と Windows コンピュータの両方に対応しています。そして POD のコマンド・ステーションでコンピューターを読み取ります。“ リモート・コントロール ” によって POD のフロントパネルで行われている作業のすべてを完了することができます。保存、サウンド選択等の機能と、エフェクト・パラメーターへのアクセス機能なども搭載しています。詳細については Deep Editing & MIDI Control を参照して下さい。エフェクトの章にある基本的な操作手順を読み終えたら、POD の MIDI コネクションに関しての説明もお読み下さい。

POD Onboard Effects

Amp Models 機能に加え素晴らしいサウンドエフェクト機能も内蔵されています。どのエフェクトにするかは エフェクト・ノブで選択して下さい。エフェクトを選択すると、POD はエフェクトのパラメーターをあらかじめ調節し、瞬時に素晴らしいサウンドを出すことができます。選択したエフェクトの特性は、タップテンポ・コントロールをおして調節し、そして Effect Tweak ノブを回します。このエフェクトは 6 章に書かれてあるようにカスタマイズすることもできます。EFFECT TWEAK のノブを回してエフェクトの調節をします。エフェクトの多くは SMARTCONTROL 機能が含まれており、ただ単に EFFECT TWEAK を回すだけでスピード、ミックスやその他のパラメーターが自動的に調節され、エフェクトの効果をフルに味わうことができます。

Compressor : コンプレッサー機能は音を圧縮して、柔らかい音を大きめにし、大きな音を大きくなり過ぎないように調節してくれます。増幅した音をなめらかに保ってくれるので屋外でのライブや、演奏音のレベルを一定にそろえたい時などに大変役立つ機能です。演奏音がある一定の値以上になるとコンプレッサーが作動し、ボリウムの変動を減少させます。BASS POD のコンプレッサーは、最高峰のスタジオで使われている LA-2A チューブ・コンプレッサーを勉強することにより開発されたものです。他のコンプレッサーのようにレシオ、アタック、リリース等の細かいセッティングの必要がなくシンプルになっていますので、大型フロント・パネルのつまみをまわしてお好きなコンプレッションの量を設定するだけです。（コンプレッサー・レシオを下げるにはつまみを時計回りにまわし最小値にあわせませす。反対に、上げるには最大値まで時計回りにまわします）LA-2A のすばらしいところは、ハイ・コンプレッション・レシオでもクリアなトーンを接続することが可能な事です。Bass POD コンプレッサーも同じようなデザインを活用していますので、コンプレッションの量にかかわらずミュージカルでスイートな音を楽しむことができます。Compress のつまみは LA-2A のようにコンプレッサー・スレッシュホールドを調節します。（Sound Diver ソフトを使ってアタック、ディケイ、レシオをコントロールすることも可能です）Compress つまみを最小にしてしまうとコンプレッション効果がなくなります。

Octave Down : Classic Boss OC2 オクターブ・ペダルをモデルにした音です。Effect Tweak つまみ

で原音とエフェクト音を調整します。4 弦ベースでもローの B 音を出すのが可能になります。低域でプレイすればする程オクターブエフェクトが原音をトラックすることが難しくなります。

Analog Chorus : このコーラスは昔の Roland CE-1 のようなクラシックな音に非常に近い音を出します。Effect Tweak つまみをまわして少量から目一杯のコーラス・セッティングを調節できます。

Danish Chorus : TC Electronics の SCF Stereo Chorus/Flanger モデルです。Effect Tweak つまみで、コーラスセッティングを調節して下さい。

Orange Phase : MXR Phase90 をベースにしたものです。Phase90 の音は他のフェザーに比べて落ち着いているので全体の音にしっかりと馴染みます。つまみひとつでスピードが変えられます。Effect Tweak を使って Phase90 と同じような音出しが可能になります。

Gray Flanger : フランジャーは 70 年代のレコーディングで知られている “ ジェット機 ” の音に似ています。本来、エフェクトは余り使われず、殆どの場合エンジニアはテープ・リールの一部に指でプレッシャーを与えながらほんの少し速度を上げたり下げたりしてエフェクトをかけていた為、あまり使われませんでした。指で押しているテープ・リールの一部をフランジャーと言うところからこの名前はきています。電氣的にエフェクトをかける事が出来るようになってからはとても良く使われる様になりました。Gray Flanger は Classic MXR Flanger のモデルです。温かみのあるサウンドが作れ、デザイン的にもユニークです。Effect Tweak つまみの調節だけでちょっとした音の変化を楽しめます。

Tron Down& UP : Mu Tron のオート・ワウとトリガード・フィルターのエフェクトを TronDown/TronUP の選択で楽しむことができます。Effect Tweak によって、Tron 調節が出来ます。

S&H : ピンテージもの Oberheim V.C.F をモデリングとした音です。(Sample&Hold エフェクトの一例です) このフィルターを使って長いサスティン効果を楽しんで下さい。Effect Tweak でスピードコントロールをします。

S&H+Flanger : Sample Hold, と Gray Flanger の様な感じで音調をアレンジ出来ます。Effect Tweak で Sample & Hold スピードコントロールします。

S&H+Danish Driver : Sample Hold エフェクトと Danish Driver の組み合わせです。Effect Tweak で Sample & Hold スピードコントロールします。

Bass Synth : Boss の Bass Synth を少し改良したものです。Effect Tweak で Decay ノブのようにエフェクトをタイトにカットしたり、ゆっくりとフェードアウトする事が出来ます。ワウペダル(POD オブションの Floor Board フット・コントローラー)とは併用出来ません。

Danish Driver : t.c.electronics の Booster, Line Driver, Distortion をモデルにした音です。歪みの量にかかわらずスムーズにディストーションし、100Hz の低音を目一杯ブーストします。Effect Tweak で、ディストーションを調節して下さい。

Large Pie : Big Muff Pi をベースにしたモデルです。Danish Driver よりも、クラシックなファズベースになります。Brit Major, Brit Class A, Stadium の様な低域のヘビーなアンプに特に有効です。Effect Tweak で調節して下さい。

Pig Foot : Hogs Foot をモデルにした音です。Hogs Foot はベースブースター/レベルドライバーであ

り Effect Tweak でディストーションを調節出来ます。

Rodent : Rat は愛用者の多いディストーションですが、Bass POD の Rodent も同じ様に多くの人に好まれるでしょう。Effect Tweak で調節して下さい。

Creating & Storing Sounds

Using the Manual Mode Features

マニュアルモードで使用する際には、全ての調節機能がアクティブになり、POD の音はノブの設定をそのまま反映します。マニュアルモードがオンになると、マニュアルボタンが点灯します。ノブを回して好きな音を探し、巻末のシートに書き留めて本体に保存します。

Using the Channel Program Memories

お気に入りの音を 36 チャンネルのメモリーの好きなところへ簡単に保存することができます。SAVE ボタン 21 を押してアップ/ダウン ボタンを押して POD の 9 桁のバンク内 A、B、C、D のメモリー・ロケーションの中から保存先を選択します。保存されている音の 1 つを選びセーブボタンを再度押すと、ライトの点滅が止まり選択した保存先に保存されます。前に保存されたものは上書きされます。サウンドが保存された後は、アップ/ダウンのボタンを押して保存先を呼び出して音を再生します。

注意) 全てのライトが点滅し始めた後、作業を中止したい場合はマニュアル、チューナー、MIDI ボタンの何れかを押すとセーブモードを解除できます。(またセーブモードを押した後に 5 秒間どのボタンも押さなければ保存は解除されます)。

TONE TRANSFER

POD sounds on the Web : Web 上での POD サウンド POD の Web サイト www.line6.com にアクセスする事によって世界中の BASSPOD ユーザーからのさまざまなサウンドをダウンロードする事が出来ます。マニュアル付き SoundDiver ソフトウェアも CD を使ってダウンロードできます。

Swapping POD Channels with Friends : 例えば、素晴らしい音を作りそれをチャンネル A のバンク 1 に保存します。曲を作るにはこの音を使わなければなりません。しかしサウンド・プログラマーのシートをコピーするのを忘れてしまい、どこにも書き留めなかったとします。このような場合、セーブボタンをホールドしながら POD のノブのどれか 1 つを回して下さい。(この時アウトプット・レベルのノブは押さないで下さい。これはプログラムへ保存されません)。セーブボタンを押しても設定が変わったり、セーブモードへ行く心配はありません。その代わりに、チューナーボタンの下の矢印が点灯します。矢印はノブを回す方向を指示しており、その方向に廻すと保存されているコントロール設定になります。ノブの位置が保存設定とぴったり合うと、両方のライトが点灯します。この作業を全てのノブで終え、タップテンポのスピードも書き留めておけば、同じ設定を他の POD で再現する事もできます。すべて正しく行われているが確認するため、ノブが設定された後にマニュアルモードへ転換し、音が変わっているか聞くこともできます。

わかりにくいようでしたら MIDI ケーブルを使って第 8 章の Deep Editing & MIDI Control を参照し、転送することも出来ます。またコンピューターで音を相互に転送する事も可能です。Macintosh と Windows の両方に Emagic 社の SoundDiver ソフトウェアは対応しています。POD の Tools CD を使うこともでき

ます。

Edit Mode

プログラムされている音にベースの音をもう少し加える事も簡単に出来ます。アップ/ダウンボタンでメモリーからの音を呼び出し、ベースノブを回して自動的にエディットモードに入ります。すると“ Edited ”の文字が点灯し、保存されたチャンネルのメモリーに変更を加えたことを知らせます。そして SAVE ボタンを使って保存します。このように保存されたチャンネルを編集する機能をエディット・モードと言います。編集を行うには、セーブボタンを押してライトが点滅したら再度セーブボタンを押します。すると音は現在選択しているメモリーに保存されます。保存先を変更したい場合には、SAVE の文字が点滅したらアップ/ダウンボタンを押して保存先を選択します。

編集した音を保存しない場合は、SAVE ボタンは無視して下さい。SAVE ボタンを押した後に保存をキャンセルする場合は、タップテンポ、マニュアル、チューナー、ノイズゲート、MIDI ボタンの何れかを押して保存の作業を中止します。編集を保存する前にチャンネルを変更してしまった場合は、変更は消去されます。

Customization Mode

AmpModels と Effects のノブを使って設定を呼出し、カスタマイズすることができます。Save ボタンを押したまま、Manual ボタンを押して下さい。Save, Manual, A, B, 全てのボタンが点滅し（その時点で操作可能になります）Customization Mode になり、Amp Models と Effects 設定を変更することができます。次に、それぞれのモジュールについて説明します。

Amp Models で設定できるもの

SoundDiver ソフトウェアまたは MIDI 使用時のみ設定できます。

Controls affected by the Amp Models Knob
Amp Model
Drive
Bass
Middle
Treble
Chan Vol
Cabinet Model
Post-Model EQ Frequency
Post-Model EQ Shape
Post-Model EQ Gain
Compressor Threshold (set by Compress Knob)
Compressor Ratio*
Noise Gate On/Off
Noise Gate Decay *
Amp Model Mid Sweep*
Volume Pedal Minimum *
Volume Pedal Location (before or after the Amp Model) *
Wah Minimum *
Wah Maximum *

同様に Effects をまわし、パラメーターの設定を行います。Amp Models と Effects の 16 個のポジションにて様々なカスタマイズ設定を保存することができます。例えば Amp Models を Stadium にすると、独

自の Stadium 音を得ることができ、上記のリストにある全ての設定をカスタマイズすることが可能です。Effects についても同様です。Chorus, Bass, Synth, etc...というように様々なバージョンをお試し下さい。

選択した Amp Model は簡単に保存し、呼出すことが可能です。例えば Brit Major を使って各種設定を保存すると Brit Major の位置につまみを合わせるだけで同じセッティングを呼び出すことが可能です。Jazz Tone や他の場合も同様です。どの Amp Model や Effect を使用しているかわからない場合は、Save を押したまま、Amp Model か Effect を回して下さい。正しい位置に来た時にチューニング・インディケーターの矢印が光ります。

Activating Customization Mode : カスタマイズのモードにするには、お好きな Amp や Effect の設定を Amp Models または Effects のノブに保存します。これらの設定はプリセットや独自の編集、また SoundDiver や Web 上からダウンロードして呼出す事も出来ます。次に、Save ボタンを押したまま Manual ボタンを押します。すると Save、Manual、A、B、全てのボタンが点滅します。これで操作可能状態となり Customization モードに入れます。Up/Down ボタンで A チャンネルを選択すると AmpModels 用ノブに設定を保存します。B チャンネルを選択すると Effects のボタンに保存します。最後に Save ボタンを押して確定します。これらのステップをまとめてみます。

1. POD で保存したいアンプ、エフェクトの設定を呼出します。
2. Save を押したまま、Manual を押す。Save、Manual A、B が点滅します。
3. Use Up/Down の矢印で A(Amp)または B(Effects)を選択する。
4. 最後に Save を押し保存完了。

Memory Reset:

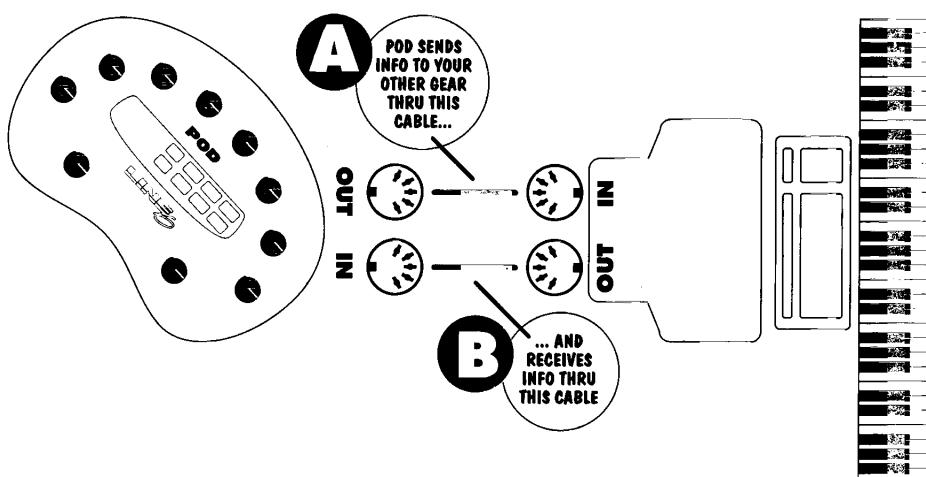
メモリーしたデーターを初期状態にリセットしたい時に使用します。Up/Down ボタン押したまま、電源をオンにすると初期状態に戻ります。

注意) アンプやエフェクトの設定など、メモリーした全てのチャンネルが消去されます。リセットする前に消去しても良いかどうか必ず確認して下さい。。これは全てのカスタム・サウンドを消去する為、十分に考えた上で作業を行って下さい。

Deep Editing & MIDI Control

What's MIDI? : MIDI (楽器用デジタル・インターフェース) は楽器間のインフォメーションを交換するコミュニケーション・プロトコルのデザインです。MIDI により他の機器をコントロールしたり、複数台の機器を一緒に連結して使用することができます。

In/Out : POD には 2 つの MIDI 端子が付いています : In/Out。MIDI ケーブルを使って MIDI 機器と POD を接続します。それぞれの接続は一方通行になっています : 情報は 1 台の機器のアウトからもう 1 台の機器のインへ送られます。また受信することも出来ますが、その場合は、もう 1 本ケーブルを接続してインからアウトに接続します。



MIDI Channel: MIDI は 1 本の MIDI ケーブルを通して異なる 16 チャンネルの情報を送受信します。MIDI ケーブルのチャンネルはプログラムが保存されている POD のチャンネルとは異なります。POD を (テレビのチャンネルを選ぶように) 特定の MIDI チャンネルに合わせた際、MIDI 機器もその MIDI チャンネルに合わせて同じチャンネルに送信することが可能です。POD の MIDI チャンネルを MIDI ボタンを押して設定します。ボタンが点灯して表示されている 1 桁の数字は POD の現在のチャンネルを表します。16 の MIDI チャンネルの中から違うチャンネルを選択する場合は、アップ/ダウンの矢印を使って下さい。POD はチャンネルの数が 2 桁 (10 ~ 16) になると 1 桁の数字の右に点を表示します。ですから “2” と表示されたら 12 チャンネルを意味します。

MIDI チャンネルを A に選択する事で全てのチャンネル (オムニモード) を聞く POD を設定する事もできます。オムニモードを使用している時、POD はチャンネル 1 で送信します。

MIDI Messages: MIDI はいくつかの異なるメッセージを異なる目的に合わせて送ることができます。

MIDI Program Changes: プログラム変更のメッセージは設定や音色の変更を機器に送ります。POD において、プログラム変更はチャンネルから他のチャンネルへの変更を意味し、POD が 1 と変更番号を受けると、バンク 1 のチャンネル A を選択します。2 の変更番号はバンク 1 のチャンネル B となります。詳細は Appendix C を参照して下さい。

MIDI Controllers: MIDI コントローラーのメッセージはリアルタイムで外部機器のパラメーターをコントロールする事ができます。例えば、MIDI コントローラーを使用して POD Drive コントローラーの設定を変えたり、リバース・レベルを変更したりすることができます。それぞれの POD のパラメーターは MIDI コントローラーへマッピングされる為、POD の全てのコントロールを行う事ができます。Appendix D に POD のパラメーターとコントローラーに関しての詳細が記載されています。Floor Board のワウとボリューム・ペダルも MIDI 経由で MIDI コントローラーのメッセージを送信します。MIDI 経由でパラメーターのコントロールを変更する際に、ノイズを最小限に押さえる為に POD のセッティングをゆっくりと変えるようにして下さい。

MIDI Sysex Commands: システム・エクスクルーシブ・メッセージとは機器固有の特殊なメッセージを意味します。Sysex は他の機器のメモリーにプログラムされたサウンドを送信したり、機器から新しいサウンドを受け取ります。このデータの交換は “ダンプ” と言われ、POD Tools CD に入

っている Emagic 社 SoundDiver ソフトウェアの Sysex コマンドを使っています。POD のプログラムをバックアップと編集の為にダンプしたり、コンピューターから POD へプログラムを送信します。また 2 つの POD が Sysex 経由で直接データを交換することもできます。その際は MIDI ケーブルを使用して下さい。詳細に関しては以下を参照して下さい。

Transferring Sounds Between Bass PODS : BASS POD から音を転送するには、標準 MIDI ケーブルと、BASS POD が必要になります。ギター POD では転送できません。受信側の BASS POD の MIDI IN を送信側の BASS POD の MIDI OUT へ接続します。2 台の BASS POD の MIDI ボタンを押し、どの MIDI チャンネルに設定されたかを確認します。UP/DOWN を使ってそれらを同じチャンネルに設定して下さい。

Emagic 社 SoundDiver Software

Emagic 社 SoundDiver にはエディター/ライブラリアン・プログラムが含まれています。SoundDiver はコンピューターに POD のサウンドを保存して、スクリーン上で POD のサウンドを編集します。CD にはインストールの方法とエレクトロニック・ユーザー・ガイドが付いていて、その中には Emagic 社のテクニカル・サポート・サービスに関する案内も含まれています。SoundDiver を使うにはコンピューターに MIDI インターフェイスを付ける必要があります。同様に、ソフトウェアのラインと音楽録音用のハードウェアも必要になります。

Other Things You Can Do With MIDI

Changing POD Channels With MIDI Program Changes :

MIDI 経由で行う基本的な事はチャンネル変更です。MIDI プログラムの変更メッセージを送る他の機器やフットコントローラーを使って変更を行うこともできます。MIDI アウトを POD の MIDI インに接続して、両方の機器の MIDI チャンネルが同じになるように設定します。そして、プログラム番号や選択チャンネルに関する詳細は Appendix C を参照して下さい。マニュアル・モードとチューナーは MIDI プログラムのメッセージで選択することができます。MIDI プログラム変更のメッセージを MIDI シーケンサーから POD へ送信そして、シーケンサーの同期信号で自動的にサウンドを変える事も可能です。

Tweaking POD Tones with MIDI Controllers : MIDI フェーダーボックス付 MIDI コントローラー、及び MIDI シーケンサーをお持ちでしたら、全てのパラメーターを MIDI によってコントロールすることができます。詳細に関しては Appendix D を参照して下さい。

Full MIDI Automation of POD : MIDI シーケンサーで POD を使う時は、MIDI コントローラーのメッセージを使ってパラメーターを自動操作する事ができます。これにより Por Tools TDM システムを使わずにプラグインソフトウェアやアンプファームのようにパラメーターを自動制御する事ができます。

POD のフロントパネルのノブは適切な MIDI コントローラーの情報を送ります。(オプションの FLOOR BOARD フット・コントローラーのワウとボリュームペダルで行うのに似ています) MIDI シ

ーケンサーに沿って POD を通り MIDI トラックへ録音することができます。第 3 章の Return to Sender を参照して下さい。

シーケンサー設定で POD の MIDI アウトを MIDI インへ接続します。シーケンサーの MIDI アウトを POD の MIDI インへ接続します。POD とシーケンサーは同じ MIDI チャンネルに設定されているか確認して下さい。

MIDI コントローラーの自動操作をする為に、シーケンサーに MIDI トラックを設定して、POD の MIDI アウトから送られる信号を録音します。そして、POD の MIDI 出力を受ける MIDI トラックを設定し、シーケンサーの録音を始めます。POD のドライブノブをゆっくりと 1 番上まで上げて、その後シーケンサーの録音を行いながら 1 番下まで下げます。シーケンサーで POD の MIDI トラックに録音されたデータを調べて下さい。MIDI コントローラーの #13 メッセージが録音されたの確認できます。これは POD のドライブ・パラメーターへアサインされたコントローラーです。POD を使って演奏しながら録音された MIDI トラックを再生します。（又は POD を通り録音されたダイレクトのギター信号を再生します）。すると MIDI トラックへ録音したドライブの変更を聞く事ができます。

フロントパネルのコントロールからアクセスできない POD のパラメーター自動操作は、（例：リバーブトーン）。MIDI コントローラーのハードウェア又は、オンスクリーン・フェーダー若しくは他のコントローラーを搭載にコンピューターのシーケンス・ソフトをご利用下さい。MIDI 経由でパラメーターのコントロールを変更する際に、ノイズを最大限にするために POD の設定はゆっくりと変更して下さい。

Step-by-Step With SoundDiver

POD で SoundDiver ソフトウェアを使う為には、MIDI インターフェイスが必要です。あらかじめ MIDI インターフェイスをコンピュータに繋ぎソフトウェアをインストールして下さい。次の手順で、SoundDiver や、POD の音をコンピュータに転送します。

1. 接続:

POD をコンピュータの MIDI インターフェイスに繋がします。2 方向通信の為 MIDI の IN と OUT を使用します。これで、POD とコンピュータ間の音の転送が可能になります。POD の OUT からコンピュータの IN に、コンピュータの OUT から POD の IN に接続して下さい。この時、POD の電源が入っている事を確認して下さい。

2. ソフトの起動

Web ページ <http://www.line6.com/Main/Support/Software/software.cfmSoundDiver> から SoundDiver インストーラーをインストールして下さい。Update バージョンも Web のサポートページ www.line6.com からインストールすることができます。インストールの後、MIDI でコンピュータと POD を接続し電源を入れると、新しくインストールした SoundDiver ソフトウェアが起動します。

3. Emagic 社のスクリーン表示後、English の言語を選択します。

4. ポートの設定

MAC) OK を押す前にモデム、プリンター、USB が正しいポートに接続されているか確認して下さい。

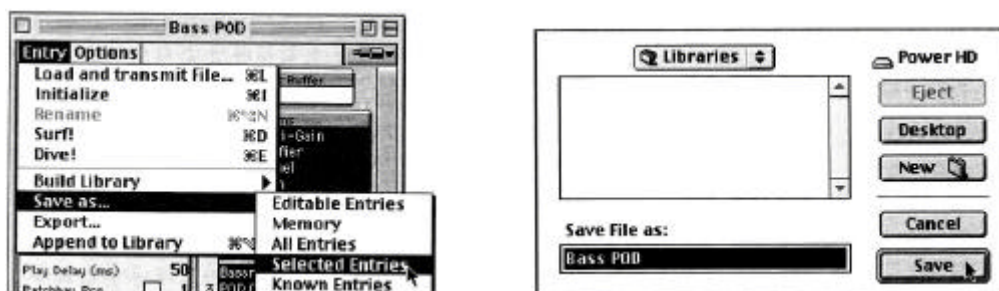
WIN) MIDI ポートに対して各種設定の確認が表示されます。設定を確認しながら OK を押します。

5. SoundDiver が POD と通信を開始します。RequestDevicsMemories と表示されたら OK を押して POD のデータを送ります。



6. 左記のような画像が表示されます。マウスを使ってユーザープログラムのヘッダーバーをクリックすると 32 ユーザーメモリー全部がハイライトされます。

7. MAC) 2つのメニューEntry と Options がウィンドウに表示されます。Entry から Save as...を下記の通り選びます。SoundDriver は標準の SaveFile ダイアログ・ボックスを表示します。これでライブラリーを SoundDriver ライブラリー・フォルダーに保存する準備ができました。SAVE をクリックして保存します



WIN) Entry メニューがスクリーン上部に表示され、File の中から Save as...を選択します。SoundDriver ソフトウェア・ライブラリーのファイルが起動時に選択されます。ファイルの名前を入力して SAVE ボタンを押します。

8. 最後に File メニューから OPEN を選択すると、下記のような表示に変わります。ここで保存したライブラリーを開いて確認します。

